

## まえがき

植田辰洋先生は、2014年4月18日に享年90歳で亡くなりました。改めて先生と共有できた時間に感謝したいと思います。

植田先生は1924年3月2日に岡山県でお生まれになり、1947年9月に東京帝国大学第一工学部機械工学科を卒業され、次いで1949年9月に東京大学第一工学部機械工学科大学院を修了されました。同年12月に東京大学講師（第一工学部）となり、助教授を経られて1960年12月に東京大学教授（工学部）に昇任し、機械工学科第一講座を担当し、1984年4月に定年退官をされております。1954年4月には、『噴流ポンプに関する研究』で東京大学から工学博士を授与されています。この間、1966年10月から1967年10月までは、UC Davis の Warren H. Giedt 先生および MIT の Warren M. Rohsenow 先生の研究室に海外出張され、帰国後は、二相流の研究に本格的に取り組まれました。東京大学退官後は、工学院大学工学部機械工学科に移られ、1991年3月まで在籍されました。工学院大学の退職後はボイラ関連の JIS 規格や便覧などに関わる安全基準などの仕事に力を尽くされました。

植田先生は高度成長期の日本の工業界を見据え、ボイラなどのエネルギー機器に関わる実学にこだわりつつも、気液二相流の学問体系の基礎を築かれました。相変化伝熱をともなう気液二相流に関する研究をまとめられた著書『気液二相流－流れと熱伝達－』は、本分野のバイブルとなっています。これらのご功績に対し、日本機械学会論文賞を初めとした多くの学術賞、また、便覧や規格規準のまとめへのご尽力等に対し、科学技術功労賞、通産大臣表彰を初め多くの表彰をお受けになっています。

植田先生のご業績とお人柄を偲び、先生のご研究成果をまとめました。

2014年10月  
丸山 茂夫  
小泉 安郎  
刑部 真弘